

1 講座名・キャンパス

(1) 講座名

科目名	実施時期	曜日	時限	授業時間	公開定員
機械加工-J	秋学期 (令和元年9月 ～令和2年1月)	水	1限	9:00～10:40	10名
機械技術史-J		水	4限	15:10～16:50	10名
環境とリサイクル		月	5限	17:00～18:40	10名
産業オートメーション		月	4限	15:10～16:50	10名
西洋建築史		月	2限	10:50～12:30	10名
住まい文化論		火	2限	10:50～12:30	10名
ライフスタイルと住空間		金	1限	9:00～10:40	10名

*この実施予定は6月20日現在のものです。変更になる場合もありますので、ご了承ください。

*本学の上記講座のお申し込みにあたっては、本学生涯学習センターホームページ

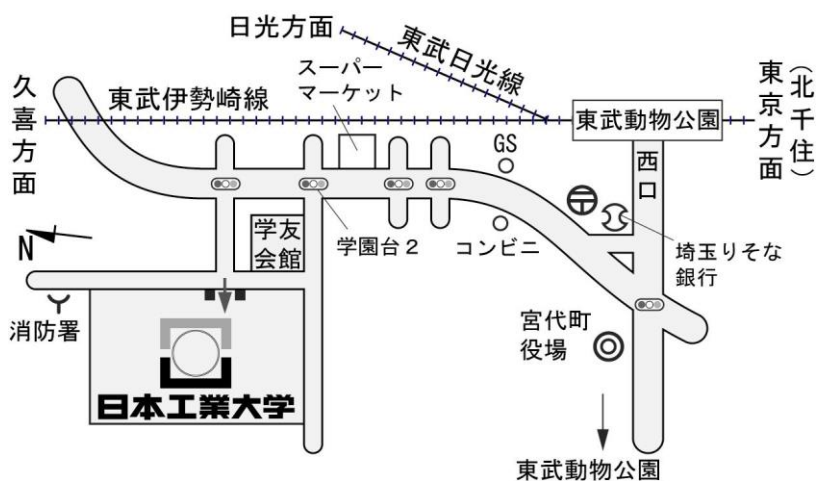
(<http://www.nit.ac.jp/center/cooperation/life.html>)に掲載する「令和元年度秋学期要項」を熟読のうえ、お申し込みください。

(2) キャンパス

東武スカイツリーライン(東武伊勢崎線)、東京メトロ日比谷線・半蔵門線「東武動物公園」駅西口より、徒歩14分、スクールバス5分。東武動物公園は北千住から区間快速で26分、新越谷から急行で19分。

JR宇都宮線(東北本線)・湘南新宿ライン「新白岡」駅東口より、スクールバス12分。新白岡は新宿から43分・大宮から18分。

*スクールバス料金:100円/片道



2 受講料・テキスト

- (1) 受講料 : 1科目につき 10,000 円
 (2) その他 : 教科書等の教材は自己負担によりご用意いただきます(書名、購入方法等は別途ご案内します)。

3 各科目の概要及び担当教員

科目名 (担当)	授業科目の概要
機械加工-J (神雅彦教授)	機械加工(切削加工)法は、機械の基本的な製法法の1つで、石器時代から存在する。長い歴史はあるが、さまざまな加工法が発達している現在もなお、携帯カメラのレンズの金型など最高精度を得ることができる加工法でもある。また、歴史が長い分だけ、学問的にも体系化されている。この授業では、金属切削の基本的なメカニズムから、現在のさまざまな加工方法、最新の工作機械および工具に関して学ぶ。授業は座学であり、板書、ビデオ映像、実物の参照などにより進められる。
機械技術史-J (丹治明講師)	歴史とは「創造と変化」の集大成である。歴史を学ぶことで「専門科目の学習意欲の向上」と「創造性の増強」が期待され、技術者・社会人としての生き方を知ることができる。そこで、本科目では、歴史的背景を礎とし技術創造立国を目指している我国のエンジニアとして必要とされる「創造力」を身につけることを目的とする。講義は、テキストや図・写真資料を PowerPoint を用いて提示し、また、本学の工業技術博物館の実物資料等の見学をとおして、機械工学・機械技術等の歴史を講述する。
環境とリサイクル (雨宮隆教授/ 内田祐一教授)	循環型社会を形成するためのリサイクル関連の法体系と種々の製品・素材に関する再生利用技術についての講義、およびリサイクル施設の実地見学を通じ、社会的なリサイクルシステムの位置づけとリサイクル技術の実際に関わる知識を身につける。さらに、本講の2回分を、埼玉県環境部殿と連携したシンポジウム「環境コミュニケーション」に充て、県内企業各社からの環境活動発表および聴講者との討論会を実施する。
産業オートメーション (竹本泰敏助教)	代表的な産業オートメーションシステムについて説明を通して、設備運転の信頼性及び自動化の基本的な考え方を習得する。また、産業オートメーションシステムに用いられるリレーシーケンス、PLC、オペアンプの基礎的な知識を習得する。産業オートメーションの適用事例を学ぶことにより、設備技術革新に柔軟に適用出来る基礎技術力を習得する。授業内に提示する演習課題については、授業内に返却および解説を行う。
西洋建築史 (西本真一教授)	古代エジプトも含めた紀元前 3000 年ほどから近代までの、およそ 5000 年間にわたる西洋建築の流れを通覧しようとする授業である。 建築史の流れは決して単純ではなく、何百年も前の時代の様式を真似したり、あるいはその模範を歪めることで新しい表現を試みたりする。

	<p>ミケランジェロと言えば有名であるから、何となく美しい建築を設計した人であろうという印象を持ちやすいが、彼はそれまでの「建築の文法」を一部分、わざと欠落させたり、あるいは大きさやかたちを歪ませたりして新たな表現を求めた典型的な作家であり、「悪い冗談としか思えない」とも評された。全般的に多数のスライドを用い、代表的な建物を紹介する。</p>
<p>住まい文化論 (板橋春夫教授)</p>	<p>私たちは家に帰ると、ドアを手前に引いて中へ入ります。玄関で靴を脱ぎ、スリッパに履き替えます。トイレでは専用のスリッパに履き替える例も少なくありません。家の中ではフローリングのソファに腰を下ろしたり、畳であぐらをかいたり寝転んだり、床座と椅子座をうまく使い分けています。伝統的な民家の住まい空間から現代住宅に至る変化について、言葉・情景・記憶をたどりながら、わかりやすい住まい文化論を講じます。</p>
<p>ライフスタイルと 住空間 (勝木祐仁准教授)</p>	<p>ディンクスやディアルライフ、SOHO やコレクティブハウジングなど、現代におけるライフスタイルと、それを反映した住居のかたちは多様化している。さらに世界に目を向けると、自然(気候・風土)や文化(民族・歴史)の違いによって、多様な住様式を見ることができる。本科目では生活環境としての住空間の広がりに触れるとともに、社会的・文化的文脈を通して空間のしくみを理解することを目的とする。各回ごとにテーマを挙げ、プリント、スライドを用いて解説する。</p>

4 受講の申込み

(1) 申込期限 **令和元年9月2日(月)** (消印有効)

(2) 申込先

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1

日本工業大学 生涯学習センター

電話：0480-34-4111 (内線 2273)

FAX：0480-33-7517

E-mail: shougai@nit.ac.jp

(3) 申込方法

以下の事項をご記入のうえ、E-mail、はがき、またはFAXでお申込みください。

① 住所 ② 氏名 ③ 年齢 ④ 性別

⑤ 電話番号 ⑥ 受講希望科目 (複数科目の選択可)

(4) 受講手続

受講お申込を確認後、本学生涯学習センターより通知書を送付いたします。

この通知書を熟読のうえ、所定の期日までに受講料の振込み等、受講手続を行ってください。